

# 平和憲法・9条をまもる 岩手の会 ニュース No.14

2006.8.28

発行：平和憲法・9条をまもる  
岩手の会 事務局会議

連絡先 県生協連・県消団連

TEL019 - 684 - 2225

FAX019 - 684 - 2227

## 「釜石・大槌9条の会」が発足しました！

第2回艦砲被災日の8月9日、釜石市民文化会館中ホールで100名を超える賛同者が集まり、「釜石・大槌9条の会」結成総会が行われました。

この会は、東じゅん子さん（いわて生協常務理事）、井上淑子さん（いわて女性・9条の会）、千田ハルさん（元「花貌」《かぼう、戦災記録集》主催者）、花石公夫さん（郷土史家）、阿部俊夫さん（県議会議員）、今野一郎さん（釜石地方労連議長）など15名がよびかけ人となって結成され、各人から悲惨な戦争体験・反戦の思いが語られました。阿部県議は、政党としての考えとは異なるが反戦の思いは決して変えることができないと、平和憲法擁護の思いを言葉を詰まらせながら語りました。

今後、学習会・講演会・映画会などを開催しながら、「9条を守る」の一点で幅広い賛同者をつのり、署名集約の運動を行うことなどを確認しました。

引き続き行われた「平和をつくり出す宗教者ネットin宮城」事務局長の川端純四郎さんの記念講演では、アメリカ資本の世界戦略の本質を解明して追従するだけの日本政府を厳しく批判すると共に、社会保障政策は労働運動の衰退に伴って弱体化することを訴えました。



## 夏の平和の取り組み報告 ピース in 矢巾 夢・まつり（8月6日） 矢巾・九条の会

結成一周年の中間行事として、徳丹城跡公園にある矢巾町有形文化財：南部曲がり家の敷地内で開催。この行事は矢巾町教育委員会が後援し、夏休み前に町内小中学校6校の生徒全員にチラシを配布、J A有線放送での宣伝もしました。



オープニングは地元「高田さんさ」子供達20人が元気に踊りました



田園フィルハーモニーのミニ演奏も好評！



原爆パネルに見入る親子の姿

戦争体験語り部は世話人の山本ミチ子さんが樺太での体験をリアルに語り、参加者の涙を誘い、「ライオンの涙」紙芝居には真剣に聞き入る子供達の姿も見られました。新鮮野菜や手作りクッキー、くじ、ヨーヨーの出店も子供達に人気でした。

辺りが薄く暗くなる頃、子供達が持ち寄った夢灯りが平和の灯火として周りを包んで幻想的な雰囲気を作り出し、全員で黙祷を行い憲法九条の大切さと世界の平和を誓い合いました。最後は、平和のうたごえを全員が輪を作り元気よく歌いました。

参加者からは「平和を心から実感できる、印象に残る催しだった」「毎年行ってほしい」などの感想が寄せられました。

## 夏の平和の取り組み報告 「戦没農民兵士の手紙展」に500人(8月13~16日)

戦場に駆りたてられ、尊い命を失った農民兵士たちの便りの数々を展示(水沢・コープアテルイ)。それらは戦後61年経てもなお、戦争の悲惨さと恐ろしさを訴え続けています。

当時を知る年代の方々や親子連れなど多く訪れ、「愛する家族を自分ことよりずっと心配していて、涙が出そうになり胸が痛みます」との感想が寄せられました。

(主催: 岩手県農村文化懇談会・岩手農民大学)



手紙の朗読や小講演会も合わせて行われました。

## 夏の平和の取り組み報告 いわて生協 ピースシアター(9月まで)

7~9月、県内40会場で平和アニメ「ガラスのうさぎ」または「アンゼラスの鐘」上映会を地域の組合員さんが企画・実施しています。地域「九条を守る会」と共催・協力しているところもあります。

これからの上映日程(小学生以上500円)

### ガラスのうさぎ

- 9/9(土) 10:30~、18:30~ 矢巾・高田コミュニティセンター
- 9/22(金) 19:00~ 岩泉町民会館
- 9/23(土) 14:00~、19:00~ 宮古・マリンコープドラ
- 9/30(土) 10:30~、14:00~ 花巻・なはんプラザ
- 同 13:00~ 滝沢・ふるさと交流館
- 同 19:00~ 気仙町・長部漁村センター

### アンゼラスの鐘

9/3(日) 10:30~、13:30~ 水沢・コープアテルイ

~「ガラスのうさぎ」  
感想文から~  
・せんそうはだめだと知らせ  
てくれる、とってもいい  
おはなしだとおもいま  
した



---

## 被爆61周年原水爆禁止世界大会 広島・長崎に参加して

小野寺 恭記(岩手県高等学校教職員組合 本部執行委員)

今回、岩手県原水爆禁止協議会の代表団団長として8月3~9日、広島・長崎で開催された上記大会に参加しました(小学生5名、中学生1名を含め各地区団体から総勢36名)。特に印象的だったことは、小・中学生の児童・生徒の参加態度の素晴らしさで、家庭や学校での教育の賜物ではあると思うが、この大会に参加するにあたっての決意を皆の前で堂々と述べる姿、広島広島平和祈念資料館でのビデオ・パネルの説明を見聞きしながら真剣にメモする姿、広島赤十字・原爆病院での説明を目を輝かせて聞き、積極的に質問する姿がはっきりと目に焼き付いている。私はその姿を見て、今回の参加の意義を深くかみしめるとともに、この真剣で純真な、将来を担う子ども達をどうして「再び戦場に送ることができるのか」と・・

また、広島と長崎の原爆病院を慰問し、事実として分かったことは、全国で被爆者手帳所持者が259,556名(今年3/31現在)うち直接被爆61%、入市被爆26%、救援・看護被爆10%、胎内被爆3% 広島原爆病院における外来患者数は1日平均330名(昨年度)、入院患者数は同128名で平均年齢が74.8才(外来患者

数、入院患者の平均年齢は長崎もほぼ同じ)疾病分類は悪性新生物、整形外科疾患、脳・心血管障害、消化器疾患、呼吸器疾患の順で多く、悪性新生物分類では肺癌、前立腺癌、胃癌、大腸癌、肝癌の順が多い。両病院とも原爆検診事業、在外被爆者渡日治療検診、被爆者医療国際協力事業などの実施が計画的に行われていることであった。

上記のことは案外私たちの知らないところではないかと思ひ、あえて示したが、大切なことではないでしょうか。被爆二世・三世、原爆認定、補償といったことを意識する機会を得たことも私にとっては大きな意味があった。

実感として戦後61年が経過した今、改めてまだまだ戦後は終わっていない、数多くの諸問題が山積している現実を直視し、問題解決のため全世界の人たちが叡智を結集することが急務であることを痛感した大会であった。

